

5. 総合評価

- ・ D-1 破碎帯は、南から D-1 既往露頭，2 号炉原子炉建屋直下を通過し，D-1 トレンチに至る区間で確認された。
- ・ D-1 トレンチ調査では，G 断層と第四系に逆断層センスで変位・変形を与える K 断層が確認された。
- ・ D-1 破碎帯，G 断層及び K 断層の関係については，破碎帯の走向・傾斜，破碎部の性状及び変位センスの類似性から，G 断層は D-1 破碎帯と一連であると判断された。一方，K 断層は D-1 破碎帯とは一連でないと判断された。

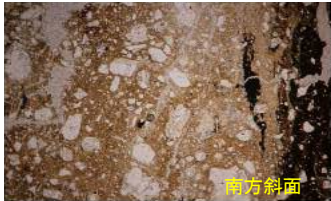
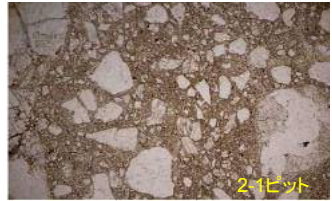
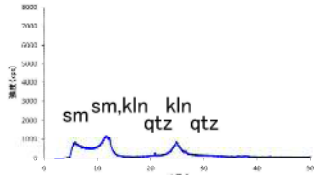
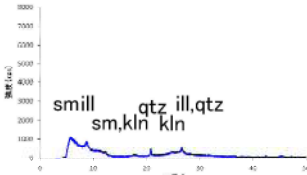
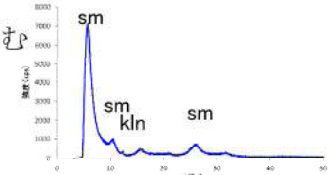
【資料 5-1】

- ・ K 断層は D-1 トレンチ付近の基盤岩の中で大きく蛇行し，また，第四系の見かけの鉛直変位量が短区間で急激に減少し，原電道路ピット付近で変位がほぼ認められなくなり，活断層に見られる特徴とは大きく異なることが確認された。
- ・ D-1 トレンチの地質層序に関する調査の結果，⑤層下部は MIS5e に対比されることが確認された。
- ・ D-1 破碎帯(G 断層含む)は少なくとも MIS6 以前の①層に，K 断層は少なくとも MIS5e の⑤層に変位・変形を与えていないことが確認された。

以上のことから，D-1 破碎帯（G 断層含む）及び K 断層は，「耐震設計上考慮する活断層」ではないと判断される。

破碎帯の性状整理表

H25.4.24以降得られたデータを反映

性状	D-1破碎帯 (2号機原子炉建屋背後斜面、D1-2～1-5孔)		G断層 (D-1トレンチ北側ピット他)		K断層 (D-1トレンチ1-1ピット他)	
変位センス	正断層		正断層		逆断層	
断層ガウジの微細構造	- 構成粒子が円磨されている - 面構造が発達し、比較的明瞭 		- 構成粒子が円磨されている - 面構造が発達し、比較的明瞭 		- 構成粒子が角礫状 - 面構造が不明瞭 	
断層ガウジの構造	縞状		縞状		無構造	
断層ガウジの色調	黄色、褐色、茶色等		黄橙色、褐色		灰赤色、灰白色等	
断層幅	狭い		狭い		広い	
断層ガウジの硬さ	締まっている		締まっている		軟らかい	
走向	おおむねN-S		N-S		基盤岩中で大きく蛇行(N-S ～ NE-SW)	
X線回折分析	スメクタイト(sm)含む カオリナイト(kln)含む 石英(qtz)含む 		スメクタイト(sm)含む カオリナイト(kln)含む 石英(qtz)含む 		スメクタイト(sm)多量含む カオリナイト(kln)含む 石英(qtz)含まず 	

連続性評価	G断層はD-1破碎帯と一連である。		K断層はD-1破碎帯とは一連ではない。	
活動性評価	①層に変位・変形を与えていない。 「将来活動する可能性のある断層等」ではない。		⑤層下部に変位・変形を与えていない。 「将来活動する可能性のある断層等」ではない。	